

第6学年国語科学習指導案

平成30年11月1日（木）5校時

6年 児童数39名

指導者 大野 香奈

1 単元名 「ぼくたち、わたしたちの考える町づくり（小京都中村編）」

教材名 「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える」（東京書籍6年）

新学習指導要領における【身に付けさせたい資質・能力】	【設定した言語活動とその設定理由】
【知・技】 (1)オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。	【言語活動】 中村の未来を思い描き、自分たちがこれからできることをプレゼンテーションする。
【思・判・表】 A(1)ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。 Cウ 目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。	
【学びに向かう力】 自分たちの町の未来に関心を持ち、進んで資料等を読んだり、集めたりして自分の考えを相手に伝えようとする。	
	【理由】 総合的な学習の時間では、小京都中村の良さや課題について学習している。今回の国語科での地域の未来を考える学習と総合的な学習の時間の課題が関連しているため、より子どもたちが、関心や目的意識を持って情報を集めたり、資料を効果的に活用したりする学習に取り組めると考える。

2 単元について

単 元 観
○現行学習指導要領の指導事項は、A話すこと聞くこと「ア考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。」「イ目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」C読むこと「ウ目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」である。 ○本教材は、コミュニティデザインという考え方の紹介を中心にしながら、大きな二つの視点に基づいて、事例を挙げて分かりやすく述べている。段落ごとのまとめりも理解しやすく、説明内容に対応する写真や図表も、筆者の主張や事例を理解しやすくするために配置させているため、後の表現活動に活用することができる。 ○本単元は、『小京都中村タウンプロジェクト』を成功させよう！』という本校の総合的な学習の時間と関連させることで自分たちの地域の現状や課題についてより深く考えられる教材である。そこで、本単元を通して自分たちが住んでいる町についての課題から地域の未来像を描き、主体的に学びに向かえる言語活動を仕組むことができる。本単元では情報を集め選択し、資料を効果的に活用する方法を考えて意図を明確に伝える力を付けたい。そして、3学期にはこの単元で付けた力を総合的な学習の時間の情報発信に生かすことができると考えている。
児 童 観
○5年生11月の「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」では、「和の文化」について調べ、伝えたい内容や目的に合わせた資料を用いて説明する学習をしている。また、6年生5月の「イースター島にはなぜ森林がないのか」では、自分の考えを持ち教材文を読む学習を通して、文章の内容を押さえて要旨を捉えたり、自分の考えを明確にしながら読んだりする力が身についてきている。 ○今年度の全国学力・学習状況調査の「話す・聞く」領域では、国語A・B共に全国平均より上回っている。特に、Bの「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」の問題では、正答率を22.6P上回っていた。また、「読む」領域では、「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」+9.6P「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」+27.2Pであった。しかし、全国学力・学習状況調査で全国平均は上回っているものの、まだ、授業の中では、聞き手を意識したり、表現の工夫をしたりして具体的に分かりやすく話すことについては十分ではない。
指 導 観
○第一次では、総合的な学習で捉えた四万十市の課題を確認し、単元のゴールで地域に向けてプレゼンテーションをするという目的意識を持たせる。そして、意図を明確に伝えるためにはどんな学習が必要なのかを自分たちで考えて学習計画を立て、主体的な学びを目指していく足掛かりとする。 ○第二次では、教科書の文章構成を捉え、筆者の観点を読み取り、対話的な学びを実現するため、①伝わりやすい構成になっているか②資料の効果的な活用ができているか③聞き手を引き付けることばになっているかの3つの観点で改善していく。そして、バックキャストिंगの考え方を知り、中村についての未来像を描き資料の効果的な提示の仕方等を考え、プレゼンテーションの構想を立てていく。 ○第三次では、自分たちのプレゼンテーションに生かす情報を整理し、発表内容を決める。その際、必要な資料を選び、構成を考え、自分たちのプレゼンテーションを仕上げる。推敲し、練り直して全体で共有する活動を通して自分の考えを広げ深めて、よりよいプレゼンテーションを仕上げていける学びにつなげたい。 ○第四次では、四万十市役所などお世話になった方を招待して、第三次までにつけた力を生かしたプレゼンテーションを行う。最後には、自分の考えが伝わるように、プレゼンテーションを行う時に意識してきた3つの観点で発表ができたか振り返り、これからの学習に生かしていけるようにしたい。

3 単元目標

- 中村の町の未来に関心を持ち、教材文や関連図書、資料等を読んで調べ、自分の考えを相手に伝えようとしている。【関心・意欲・態度】
- 収集した知識や情報を分類したり、関係づけたりして伝えたい内容に応じて整理することができる。【A話すこと・聞くこと ア】
- ◎意図を明確に伝えるために、資料を効果的に活用し、表現を工夫して話すことができる。【A話すこと・聞くこと イ】
- 自分たちの町についてプレゼンテーションするために、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読むことができる。【C読むこと ウ】
- 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ち、自分の表現に生かすことができる。【言イ(カ)】

4 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く	読む	言語についての 知識・理解・技能
①中村の町の未来に関心を持ち、教材文や関連図書、資料等を読んで調べ、自分たちの考えを相手に伝えようとしている。	①収集した知識や情報を分類したり、関係づけたりして伝えたい内容に応じて整理している。 ②意図を明確に伝えるために、資料を効果的に活用し、表現を工夫して話している。	①自分たちの町についてプレゼンテーションするために、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読んでいる。	①語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持ち、自分の表現に生かしている。

5 指導と評価の計画（全 13 時間）

		めあて	評価規準【評価方法】	学び	評価
第 一 次	1	・これからどんな力をつけていけばいいのだろう。和の文化の学習を基に、学習計画を立てよう。	・プレゼンテーションをすることに関心を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 (ノート・観察)	主 対	関①
	2	・説明文の構成（序論・本論・結論）を確かめながら町の幸福論を読み、プレゼンテーションに使う言葉を確認しよう。	・構成を確かめながら町の幸福論を読んでいる。 (ノート・観察) ・聞き手に伝わりやすくするために、発表にふさわしい言葉を書き出させる。 (ノート)	対	読① 言①
第 二 次	3	・筆者の主張は何だろう。筆者の事例の挙げ方に着目して考えよう。	・事例の挙げ方に着目して筆者の主張を考えている。 (ノート・発言)	対	読①
	4	・バックキャストイングとはどういう考え方だろう。文章と図を関連付けて考えよう。	・バックキャストイングの方法を理解し、文章と図を関係付けて読むことができる。 (ノート・ワークシート・観察)	主 対	読①
	5	・筆者の例文を基に、資料の効果を考えよう。	・資料の効果について考えている。 (ノート・観察)	対	関① 話・聞②
第 三 次	6	・これまでに集めた情報を整理して内容を決め、構成メモにまとめよう。	・集めた情報を整理して発表内容を決め、構成メモを書いている。 (ワークシート・ノート)	対	話・聞①
	7	・構成や資料に着目して、教科書の原稿と比較しながら自分たちの原稿を作成しよう。	・構成に着目し、伝えたい内容と合っているか、資料と原稿を比べながら考えている。(ノート・観察)	対	話・聞①
	8	・プレゼンテーションで使う言葉に着目して、聞き手により明確に伝わるプレゼンテーションに仕上げよう。	・聞き手を意識して、より伝わるプレゼンテーションになるように言葉を吟味している。(ノート・観察)	対	話・聞②
	9 本時	・3つの観点に着目して、自分たちのプレゼンテーションをより伝わりやすいものに見直そう	・改善点について再度話し合い、自分たちの発表を推敲している。 (ノート・観察)	対 深	話・聞②
	10	・改善点に着目して、自分たちの発表内容を練り直し、さらに聞き手に伝わりやすいプレゼンテーションを目指そう。	・改善点を受けて、言葉を選んだり、資料の効果的な活用について考えたりしている。 (原稿・観察)	対 深	話・聞② 言①
	11	・先生をひきつけられるだろうか。表現の工夫に着目してより明確に伝わる改善点を見つけよう。	・表現の工夫に着目して、より明確に伝わる改善点を見つけている。 (ノート・観察)	対 深	話・聞②
	12	・先生や友だちからの意見を基に、さらに改善し、聞き手に伝わるプレゼンテーションに仕上げよう。	・聞き手に伝わるプレゼンテーションに仕上げている。 (原稿・観察)	対 深	話・聞② 言①
第 四 次	13	・地域の方をひきつけられるプレゼンテーションができるだろうか。 意図が明確に伝わるプレゼンテーションにしよう。 (100 分)	・これまで学習してきたことを生かして、自分たちの地域の未来に向けて自分たちができることをプレゼンテーションしている。(ノート・観察)	対 主	話・聞② 関①

6 単元構想図

付けたい力に向けた言語活動

中村の未来を思い描き、自分たちがこれからできることをプレゼンテーションする。

児童の実態

聞き手を意識したり、表現の工夫をしたりして具体的に分かりやすく話すことについては十分ではない。

本単元で児童に付けたい力

◎資料を効果的に活用したり、表現を工夫したりして自分の考えを明確に伝える力

第一次
1

(導入)

第二次
4

(展開)

第三次
7

(発展①)

第四次
1

(発展②)

主体的な学び

学習の流れと評価計画(全13時間)

○学習課題を確かめ、学習の計画を立てる。1

- ・既習で得た力を確認し、教師のプレゼンテーションを聞くことによってゴールイメージを持ちそのために必要な力を確かめる。

【関①】

対話的な学び

深い学び

○教科書を読み、構成・説明の観点・資料の効果などについて考える。4

- ・町の幸福論の構成を確かめる。【読①】【言①】
- ・筆者がどんな観点からどのようなことを論じているのかを読み取り、自分たちの観点について考える。

【読①】

- ・バックキャストの考え方を知り、自分たちの町の未来像をイメージする。【読①】

- ・筆者がどんな資料や例を挙げて論を述べているのかについて考え、自分たちの資料を見直し選択する。

【関①】【話・関②】

対話的な学び

深い学び

○情報を整理し、構成を考え、プレゼンテーションを仕上げて発表・推敲する。7

- ・自分たちのプレゼンテーションに生かす情報を整理し、発表内容を決める。【話・関①】【関①】
- ・構成と必要な資料を考える。【話・関①】
- ・プレゼンテーションを仕上げ、練習する。【話・関②】

本時

- ・クラスで友だちにプレゼンテーションし、推敲する。【話・関②】
- ・前時で出てきた改善点を受けてプレゼンテーションを見直し、推敲する。【話・関②】【言①】
- ・プレゼンテーションの改善点、見直し、練習する。【話・関②】
- ・プレゼンテーションしたものを推敲し、練習する。【話・関②】【言①】

対話的な学び

主体的な学び

○ぼくたち、わたしたちの考える町づくりのプレゼンテーションをする。1

- ・地域の人たちに向けてプレゼンテーションを行い、単元のふり返しをする。【話・関②】【関①】

7 本時における研究テーマとのかかわり

本時の目標 よりよいプレゼンテーションにするために、構成、適切な言葉や資料の使い方などについて考えることができる。

本時の評価規準

改善点について再度話し合い、自分たちの発表を推敲している。

支援

※プレゼンテーションで伝えるだけでは分かりにくいので、言葉を意識させるために、使う言葉をカードに書いて提示しておく。

主体的な学びにつながる手立て

- ・これまでの学習を想起させ、めあてをみんなで考えていく。
- ・自分にどんな力がついたのかが分かるような振り返りを書かせることで、学びの自覚化を図る。

深い学びへ向かう手立て

- ・全体交流後、自分たちのグループで再度推敲させることで、よりよいプレゼンテーションを目指していく機会を設ける。

軸となる言語活動

○3つの観点に着目し、自分たちのプレゼンテーションを推敲することで、より説得力のあるプレゼンテーションに仕上げる。

思考・判断

- ・他のグループのプレゼンテーションを聞いてみて、自分たちの発表について個人・グループで推敲する。
- ・3つの観点に着目してグループの改善点を考える。

表現

- ・グループで話し合った改善点について全体で伝え合う。

対話的な学びを実現するための手立て

- ①伝わりやすい構成かどうか
- ②資料の効果的な活用ができているか
- ③聞き手の興味を引き付ける言葉などの工夫ができていたかの3点について対話させる。

- ・改善点を書いた付箋をホワイトボードに貼り、分類させたり、まとめさせたりする。

第一次 1時間目（1／13）

（１） 目標 学習の見通しを持ち、町の未来のプレゼンテーションをしようとする意欲を持つことができる。

（２） 展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問 発
見 通 す	1. これまでの学習を想起する。 2. これまでにつけた力を確かめる。 ・伝えたい内容に合わせた資料を選ぶ力 ・要旨をまとめる力 ・聞き手に分かりやすく伝える工夫 3. 単元のゴールを確認する。 4. プレゼンテーションのモデルを確認する。 5. めあてを確認する。	○「和の文化」や「イースター島」での学習を想起させる。 ○地域の方を招待し、プレゼンテーションをすることの見通しを持たせる。 ○モデルのようなプレゼンテーションを行うためには、これからどんな力が必要か考えながら見るように指示をしておく。
	これからどんな力をつけていけばいいのだろう。 和の文化の学習を基に、学習計画を立てよう。	
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	6. プレゼンテーションに必要なことを話し合う。 【個人】→【グループ】 7. グループで話し合ったことを出し合い、付けた力について全体で確認する。 【全体】	発 プレゼンテーションに必要な力とはどんなことと思いますか。 ○単で付けたい力を児童の意見から確認していく。 ※今までの付けた力と関連しながら考えさせる。 ☆プレゼンテーションをすることに関心を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 【関①】（ノート・観察） ○グループや全体で話し合ったことをノートにメモをさせ、これからの学習の足跡にしていくことを確認する。
ま と め 振 り 返 る	8. 今日の学習を振り返る。 家庭学習 町の幸福論を読み、形式段落を付け、序論・本論・結論に分けてくる。	○交流から、どんな新しい発見や気づきがあったか、これからどんなことに気をつけてプレゼンテーションをしていきたいのかの視点で振り返りを書かせる。

（３） 準備物 ホワイトボード、モデルのプレゼンテーション

第二次 1時間目（2／13）

（１） 目標 説明文の構成（序論・本論・結論）を確かめながら町の幸福論を読む。

（２） 展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問 発
見 通 す	1. 単元のゴールを確認する。 2. めあてを確認する。 説明文の構成（序論・本論・結論）を確かめながら町の幸福論を読み、 プレゼンテーションに使う言葉を確認しよう。	○学習の流れの確認をし、そのために必要な力について振り返る。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. 町の幸福論の構成を確かめる。 【個人】→【グループ】→【全体】 4. プレゼンテーションに必要な構成の仕方について考える。 【グループ】 5. プレゼンテーションにしたい言葉をまとめる。 ・～は知っていますね。 ・みなさんも～してみてください。 ・魅力的 ・いちず ・楽観的 ・閑散とする	○予習でそれぞれが考えてきたことを基に、どんな構成で文章が書かれているのか確認する。 発 町の幸福論の構成は、どのようなまとまりになっていますか。 ☆構成を確かめながら町の幸福論を読んでいる。 【読①】（ノート） ○総合的な学習の時間で調べてきた、プレゼンテーションにしたい言葉を選択し、まとめさせる。 ☆聞き手に伝わりやすくするために、発表にふさわしい言葉を書き出させる。 【言①】（ノート） ※思考が止まっている児童には、総合的な学習の時間で調べた言葉を確認させたり、教科書を参考にしたりしながら語句を見つけさせる。
ま と め 振 り 返 る	6. 今日の学習を振り返る。 家庭学習 筆者はどんな主張で、どんな事例を挙げているのかについて考えてくる。	○考えてきた構成と比べてどうだったか、今日の学習で身に付いた力は何かという視点で振り返りを書かせる。

（３） 準備物 ホワイトボード、プレゼンテーションにしたい言葉

第二次 2時間目（3／13）

（１）目標 事例の挙げ方に着目して、筆者の観点を明らかにしながら内容を読み取ることができる。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問 発
見 通 す	1. 単元のゴールを確認する。 2. めあてを確認する。 筆者の主張は何だろう。筆者の事例の挙げ方に着目して考えよう。	○学習の流れを確認する。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. 予習をもとにペアで話をし、筆者の主張が何であるかを確かめる。 【個人】→【ペア】 4. ペアで話し合ったことを全体で意見を出し合う。 【全体】 （１）筆者の主張について共通確認をする。 （２）２つともに共通している主張について考え、まとめる。 ・例１では祭りを例に挙げて… ・例２では県立公園… 5. 全体で確認したことを参考に、筆者の主張を自分たちの発表にも取り入れるという確認をし、考えをまとめる。	発 本論１で筆者はどんなことを伝えたいのか、２つの事例の共通点は何でしょう。 ☆事例の挙げ方に着目して筆者の主張を考えている。 【読①】（ノート・発言） ※悩んでいる児童には、何度も出てくる言葉や題名等を手がかりにさせる。 ○筆者が「豊かさ」や「人と人とのつながり」という観点から意見を述べていることを押さえさせる。
ま と め 振 り 返 る	6. 今日の学習を振り返る。 家庭学習 本論２を読み、ワークシートに未来像を書き込んでくる。	○今日の学習でどんな力が身に付いたと思うのか、また、筆者の主張を知り、自分たちのグループでどんなことが生かせそうかの視点で振り返りを書かせる。

（３）準備物 ホワイトボード、ワークシート

第二次 3時間目（4／13）

（１）目標 バックキャスティングの考え方を理解し、文章と図を関連付けて読むことができる。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問 発
見 通 す	1. 単元のゴールの確認をする。 2. ワークシートにかいた未来像について確認する。 3. めあてを確認する。 バックキャスティングとはどういう考え方だろう。 文章と図を関連付けて考えよう。	○予習を確認して、本時の意欲付けにつなげる。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	4. 予習をもとに、自分がかいたバックキャスティングの図について交流する。 （１）バックキャスティングの図について交流する。 【個人】→【グループ】 （２）文章に書かれていることを根拠に意見を出し合う。 5. グループで出し合った意見を全体で確かめ、交流する。 【全体】 6. グループや全体の対話から自分たちの考えをまとめる。 【グループ】	○友だちとの共通点・相違点・気づいたことをノートに書きながら交流させる。 ※悩んでいる児童には、教科書を手がかりに考えさせる。 発 本文と自分たちがかいたバックキャスティングの図を比較してみて気づいたことは何ですか。 ☆バックキャスティングの考え方を理解し、文章と図を関連付けて読むことができる。 【読①】（ノート・ワークシート・観察）
ま と め 振 り 返 る	7. 今日の学習を振り返る。 家庭学習 筆者の例文を読んで、資料がどんな効果があるのかを考えノートに書いてくる。	○文章と図を関連付けて考えることで、どんな効果があったのか、また、このことをどう生かせるか振り返りを書かせる。

（３）準備物 ホワイトボード、ワークシート、バックキャスティングの図

第二次 4時間目（5／13）

（１）目標 筆者の３つの事例の内容を読み、資料の効果を読み取ることができる。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問 発
見 通 す	1. 単元の流れやゴールのイメージを確認する。 2. めあてを確認する。 筆者の例文を基に、資料の効果を考えよう。	○予習を確認して資料について共有する。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. 資料の効果について話し合う。 【個人】→【グループ】 ・写真を見るとどんなお祭りが分かる。 ・棒グラフ表すことで数（増え方）が分かりやすい。 ・数字を使うことで分かりやすくなる。 4. グループで集めた情報を整理し、自分たちの発表の内容に必要な資料を考える。 （１）自分たちの発表にどの資料を使うのかを選ぶ。 【グループ】 （２）どのように使うかを話し合う。 【グループ】	○それぞれの資料と文章を結び付きや、資料を用いる目的について考えさせる。 発 それぞれの資料にはどんな効果がありますか。 ☆資料の効果について考えている。 【関①】【話・聞②】（ノート・対話） ○自分たちが調べた事例を発表する時にどのような資料を使うのか考えさせる。 ※発表するために不足している資料があれば、追加するように促す。
ま と め 振 り 返 る	5. 今日の学習を振り返る。 家庭学習 構成メモに必要なことを、ワークシートに 箇条書きで書いてくる。	○資料を効果的に使うための工夫で分かったことや、自分たちのプレゼンテーションにどう生かしたいのか、振り返りを書かせる。

（３）準備物 ホワイトボード、ワークシート

第三次 1時間目（6／13）

（１）目標 集めた情報を整理して自分たちの発表内容を決め、構成メモを書くことができる。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問 発
見 通 す	1. 単元のゴールを確認する。 2. めあてを確認する。 これまでに集めた情報を整理して内容を決め、構成メモにまとめよう。	○単元のゴールを確認し、予習をもとに本時の学習を考えさせる。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. 集めた情報を整理する。 【グループ】 4. 話す内容を書き出し、必要な資料を整理して構成メモに書く。 【個人】 5. グループで話し合ったことを、全体で確認する。 【全体】	○予習で考えてきた提案や事例などを、話す順番に整理させる。 ○話のまとまりごとに短い言葉でまとめさせる。 ☆集めた情報を整理して発表内容を決め、構成メモを書いている。 【関①】【話・聞①】（ワークシート・ノート） ※構成メモの書き方が分からなくなった時は、教科書を参考に考えさせる。 発 自分たちが伝えたいことに対して、最も適切な情報を選ぶために気をつけたいことはどんなことですか。
ま と め 振 り 返 る	6. 今日の学習を振り返る。 家庭学習 教科書の発表原稿と比較して、自分たちの原稿を考え、ノートに書いてくる。	○グループで話して、自分の考えが変わったところや他のグループから話を聞いて参考になったことを入れて振り返りを書かせる。

（３）準備物 ホワイトボード、構成メモの掲示物

第三次 2時間目（7／13）

（１）目標 構成に着目し、資料と発表原稿を対照しながら、自分たちの原稿を考えている。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問 発
見 通 す	1. 単元のゴールを確認し、予習を確かめる。 2. めあてを確認する。 構成に着目して、資料と原稿を比較しながら自分たちの原稿を作成しよう。	○単元の流れを共有し、予習を確認する。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. グループで視点に沿って発表原稿を確認する。 【グループ】 4. グループの話し合いで問題に挙がったことを全体で交流する。 【全体】 5. 全体で確認したことをもとに、発表原稿を見直す。 【グループ】	○構成メモに沿った構成で発表原稿が書かれているか。伝えたいことと資料の関連はよいのかの視点で話し合わせる。 ※困った時は、教科書を参考にさせる。 発 原稿に使われなかったのはどんな情報ですか。なぜ使わなかったのですか。 ☆構成に着目し、伝えたい内容と合っているか、資料と原稿を比べながら考えている。 【話・聞①】（ノート・対話） ○原稿の順序・内容等が伝えたい内容から外れていないか確認する。
ま と め 振 り 返 る	6. 今日の学習を振り返る。 家庭学習 グループの原稿を、どの言葉を大事にした いかチェックしながら再度読んでくる。	○グループの原稿の繋がり具合は何パーセントくらいか。理由を入れて振り返りを書かせる。

（３）準備物 ホワイトボード

第三次 3時間目（8／13）

（１）目標 よりよい言葉を選びながら聞き手を意識してプレゼンテーションを考えることができる。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問発
見 通 す	1. 単元のゴールを共有し、3つの観点を確認める。 2. めあてを確認する。 プレゼンテーションで使う言葉に着目して、聞き手により明確に伝わるプレゼンテーションに仕上げよう。	○ゴールイメージや3観点を確認し、本時の学習の意識付けを図る。 ①伝わりやすい構成 ②資料の効果的な活用 ③聞き手を引き付ける言葉などの工夫
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. 予習をもとにして、グループで原稿を確認する。 【個人】→【グループ】 4. プレゼンテーションで伝わりやすい言葉を全体で確認する。 【全体】 5. 全体で確認したことをもとに、再度自分たちの発表を見直し、仕上げる。 【グループ】	○よりよい言葉は何か、考えながら聞き合うように指示する。 ○教科書や「プレゼンテーションに使いたい言葉」「言葉の宝箱」国語辞典などを手がかりに言葉を吟味させる。 ☆聞き手を意識して、より伝わるプレゼンテーションになるように言葉を吟味している。 【話・聞②】（ノート・観察） ○吟味したプレゼンテーションで使う言葉を、明記させておく。 発グループで話し合い、言葉をどのように改善しましたか。
ま と め 振 り 返 る	6. 今日の学習を振り返る。 家庭学習 プレゼンテーションに向けて練習してくる。	○今日の学習で、初めと比べて変わったところや、新しい気づきを視点に振り返りを書かせる。

（３）準備物 ホワイトボード、「プレゼンテーションで使いたい言葉」「言葉の宝箱」

本時の学習

第三次 4時間目（9／13）

（１）目標 よりよいプレゼンテーションのために構成、適切な言葉や資料の使い方などについて考えることができる。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問 ^発
見 通 す	1. 今までの流れを確認する。 2. 本時のめあてをつかむ。	○「学習の流れ」で確認する。 ○予習を確認し、課題意識を持たせる。 （３つの観点の確認もする） ①伝わりやすい構成 ②資料の効果的な活用 ③聞き手を引き付ける言葉などの工夫
	3つの観点に着目して、自分たちのプレゼンテーションをより伝わりやすいものに見直そう。	
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. グループでプレゼンテーションを行い、改善点について話し合う。 【個人】→【グループ】 （１）他のグループの改善点をメモしながら聞く。 （２）付箋に書いた意見を基にグループで交流し合う。 （３）他のグループから指摘された改善点を確認する。 4. グループで話し合ったことを全体で交流する。 【全体】 ・「たくさんという言い方で分かりにくい」という意見を言ってもらったので、語句を考え直したいと思う。 ・「増えている」という言葉で伝えたけど、どれだけ増えているのかの数を入れた方がいいと分かり、入れることにした。 ・自分たちと構成が違っていて、それがより伝わりやすいと思った。 5. 自分たちのグループのプレゼンテーションについて推敲する。 【グループ】	○どの思考スキルが使えるか確認する。 ○２つのグループで互いにプレゼンテーションを見合い、３つの観点に着目して改善点を見つけさせる。 ※グループの発表や対話の時に、何について話し合うのか視点を明確にさせる。 ^発 聞き手からの意見や感想に、今日のレベルアップポイントはありましたか。 ○他のグループや全体の意見を聞き、自分たちの発表について吟味し、グループで推敲させる。 ☆改善点について再度話し合い、自分たちの発表を推敲している。 【話・聞②】（ノート・観察）
ま と め 振 り 返 る	6. 今日の学習を振り返る。 家庭学習 今日のプレゼンテーションを通して、「もっとこんな言葉が使えるそう」を考えてくる。	○今日の学習を通して、より明確に伝わりやすくするにはどうすればいいのか、分かったことについて振り返りを書かせる。

（３）準備物 ホワイトボード・プレゼンテーションで使いたい言葉集・付箋

第三次 5時間目（10／13）

（１）目標 プレゼンテーションに向けて、更に言葉を見直したり、資料の効果的な活用について考えたりしている。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問発
見 通 す	1. 単元のゴールを確認する。 2. めあてを確認する。 改善点に着目して、自分たちの発表内容を練り直し、さらに聞き手に伝わりやすいプレゼンテーションを目指そう。	○学習の流れや予習を確認し、前回より良いプレゼンテーションになるよう意識付けを図る。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. 前時で出てきた改善点で、今日の時間に生かしていきたいことを話し合い確認する。 （１）各グループで改善点について確認する。 （２）グループでの発表内容の改善が、昨日と比べて良くなったところを話し合う。 【グループ】→【全体】 4. 話し合って練り直した内容で練習する。	○聞き手に伝わりやすいプレゼンテーションにするために改善することを確認する。 発 昨日のプレゼンテーションと比べてどんなところが良くなりましたか。 ☆改善点を受けて、言葉を選んだり、資料の効果的な活用について考えたりしている。 【話・聞②・言①】（原稿・観察） ○グループ内でお互いにアドバイスをし合いながら練習させる。 ※改善点について困った時には、他のグループからのアドバイスも参考にさせる。
ま と め 振 り 返 る	5. 今日の学習を振り返る。 先生にプレゼンテーションをするために、自分の担当の発表を練習してくる。	○自分たちで改善したプレゼンテーションは何点か。どんなところが聞き手に伝わりやすくなったと思うのか。それが良くなったのはなぜかも含めて振り返りを書かせる。

（３）準備物 ホワイボード

第三次 6時間目（11／13）

（１）目標 語彙の選び方、資料の活用や提示の仕方をより明確に伝わる改善点を見つけている。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問発
見 通 す	1. 単元のゴールを確認する。 2. めあてを確認する。 先生をひきつけられるだろうか。 表現の工夫に着目してより明確に伝わる改善点を見つけよう。	○予習を確認し、前回より更によりプレゼンテーションを行うことを確認させる。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. 各グループでプレゼンテーションを行う。 【グループ】 4. プレゼンテーションで感じたことの意見を交流し合う。 【グループ】 5. 聞き手からの意見や感想を参考に、全体で共有する。 【全体】 6. 先生や他のグループからの意見を聞き、更に改善点を話し合う。 【グループ】	○先生を引き付けるようなプレゼンテーションにすることを確認する。 ○先生方からも、3つの観点についてどうだったかの感想をもらうように促す。 発聞き手の意見や感想を受けて、どんな改善点がありましたか。 ☆表現の工夫に着目してより明確に伝わる改善点を見つけている。 【話・聞②】（ノート・観察）
ま と め 振 り 返 る	7. 今日の学習を振り返る。 家庭学習 聞き手に伝わるためのプレゼンテーションの改善や工夫をノートに書いてくる。	○今日のプレゼンテーションは何点か。前回のプレゼンテーションと変化したのはどんなところか、今日分かったことが次回どう生かせると思うかについて振り返りを書かせる。

（３）準備物 ホワイトボード

第三次 7時間目（12／13）

（１）目標 改善点を受けて、聞き手に伝わるプレゼンテーションに仕上げることができる。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問発
見 通 す	1. 前時の復習をし、単元のゴールを確認する。 2. めあてを確認する。 先生や友だちからの意見を基に、さらに改善し、聞き手に伝わるプレゼンテーションに仕上げよう。	○予習をもとに本時の学習を考えさせる。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. 前時のプレゼンテーションの改善点をもとにグループで話し合う。 【グループ】 （１）改善点について確認する。 （２）プレゼンテーションを仕上げる。 4. グループで練習する。	○どんな改善点があったのか焦点を絞って交流させる。 ○言葉や構成、資料が効果的に使うように促す。 ※プレゼンテーションに使いたい言葉を再度確認させる。 ☆聞き手に伝わるプレゼンテーションを仕上げていく。 【話・聞②】【言①】（観察・ノート）
ま と め 振 り 返 る	5. 今日の学習を振り返る。（グループ） （１）仕上がったプレゼンテーションの点数は何点かをグループで確認させ、話し合わせる。 （２）グループで、本番のプレゼンテーションの目標を話し合う。 家庭学習 地域の方へ行うプレゼンテーションに向けて、練習をしてくる。	○プレゼンテーションの仕上がりは何点か、それはなぜかを書かせ、その理由についても具体的に表現させる。また、本番はどんなプレゼンテーションにしたいのかについて書かせる。 発なぜ、その点数をつけたのですか。 ○話し合ったことをノートに書かせる。

（３）準備物 ホワイトボード

第四次 1時間目（13／13）

（１）目標 これまで学習してきたことを生かして、自分たちの地域の未来に向けて、自分たちができることをプレゼンテーションしている。

（２）展開

	主な学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点（○）支援（※） 評価（☆）、主な発問発
見 通 す	1. 単元のゴールを確認する。 2. めあての確認をする。 地域の方をひきつけられる発表ができるだろうか。 意図が明確に伝わる発表をしよう。	○グループでの目標を確認し、意欲付けを図る。
思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 す る	3. グループごとにプレゼンテーションをする。 4. プレゼンテーションを聞き合って、良かったところを発表し合う。	○地域の方に意図が伝わるようなプレゼンテーションができるよう促す。 ○他のグループの発表を聞きながらよかったところを付箋に書くことを指示しておく。 ☆これまで学習してきたことを生かして、自分たちの地域の未来に向けて自分たちができることをプレゼンテーションしている。 【話・聞②・関①】（ノート・観察） 発 他グループのプレゼンテーションを見て、3つの観点から良かったところを考えてみましょう。 ※構成・資料の効果的な活用・表現の工夫で、聞き手を引き付けられるものになったのかを気づくようにさせる。
ま と め 振 り 返 る	5. 今日の学習を振り返る。（個人）	○これまでの学習を通して、どんな力がついたのか、これからどんな学習に生かすことができるかの視点で振り返りをさせる。

（３） 準備物 ホワイトボード、付箋